様式第27号

管理運営評価シート（令和７年度）

施設名称	縄文の里・朝日	評価対象年度	令和　7　年度
指定管理者名	公益財団法人イヨボヤの里開発公社	所管課	生涯学習　　課
指定期間	令和４年４月１日～令和９年３月31日（５年間）	評価者（課長）	平山　祐子

１　令和７年度の実績

（１）事業実績

利用実績	有料入館者数1,422人、有料体験者数721人、食堂・売店利用人数623人
サービス向上の取組	①ホームページ及びSNS等での情報発信　②利用者のニーズに沿った施設運営　③特別展や各種行事の充実

（２）管理経費

（単位：千円）

区分		前々年度（R5年度）	前年度（R6年度）	当該年度（R7年度）	合計	備考
収入	指定管理料	29,423	30,121	32,088	91,632	基本協定額：　153,558　千円
	利用料金				0	
	事業収入				0	
	自主事業収入	297	408	391	1,096	
	その他				0	
	収入合計　①	29,720	30,529	32,479	92,728	
支出	人件費	15,627	16,741	17,385	49,753	
	福利厚生費	3,090	3,231	3,485	9,806	
	事務費	1,305	1,034	1,037	3,376	
	管理費	7,015	6,612	7,602	21,229	
	水道光熱費	3,328	2,834	3,357	9,519	
	修繕料	349	88	188	625	
	使用料・リース料	686	758	765	2,209	
	手数料・保険料	87	284	523	894	
	委託料	2,565	2,648	2,769	7,982	
	事業費	485	477	467	1,429	
	自主事業経費	219	251	344	814	
	その他	1,901	2,026	2,112	6,039	
	支出合計　②	29,642	30,372	32,432	92,446	
収支差額（①－②）		78	157	47	282	

2 共通評価項目

（記入者）自己評価…指定管理者　所管評価…施設担当課

評価項目	判断基準	自己評価	所管評価	備考（所管評価） （◎、△、×のときは評価内容、その他特記事項があれば記入）
公の施設の平等な利用の確保	事業内容等は、一部の市民や団体に対して、不当に利用を制限又は優遇するものではない。	○	○	
	社会的弱者の公平利用について、配慮されている。	○	○	
情報公開、個人情報保護の取組	情報公開、個人情報保護に係る措置が適切に講じられている。（書類の保管、社員への周知等）	○	○	
	情報公開、個人情報保護について、内部規約の整備や実施基準等が考慮されている。	○	○	
従業員の労働条件など法令遵守による管理運営	適切な労働条件や運営体制が確保されている。	○	○	
	関係する法律、条例等を理解し遵守している。	○	○	
業務仕様書の水準を満たしたサービスの提供	公の施設の管理運営にふさわしい理念やコンプライアンスの取組等、透明性の高い運営を行っている。	◎	◎	縄文時代の展示に対し理解を深めてもらうため、独自の音声コンテンツを作成しサービスの向上に努めている。
	施設の設置目的を理解し、仕様書に指定された業務を実施している。	○	○	
創意工夫によるサービス向上と自主的な経営努力	サービス向上のための取組を行っている。	○	○	
	利用者の要望や意見を把握し、その対応方法が的確になっている。	○	○	
	施設やサービスの利用促進・拡大を図るため、適切な広報や的確な手法を行っている。	◎	◎	今年度もSNSの拡充を図っており、登録者層に合わせた内容を投稿することで、県内外及び国外に向けた周知を行っている。また、昨年度よりもイベント情報等を多く投稿することで、施設への関心を高め、利用促進に努めている。
	自主事業の実施方針及び内容は施設の設置目的を果たすものとなっており、効果的に実施されている。	○	○	
経営努力による経費縮減の取組	安全な管理体制及び事業実施に対して、適切な収支決算となっている。	○	○	
	縮減の取組がサービス低下につながらず、バランスが図られた事業内容となっている。	○	○	
	管理効率化等による余剰分を新たなサービス展開による施設効用の拡大につなげている。	○	○	
	新たな収入の創出等、経営の安定化に向けた独自の取組を行っている。	○	○	
適正な人員配置や人材育成の取組	適切な人員や有資格者の配置、勤務体制、労働管理となっている。	○	○	
	人材育成に対する積極的な取組が講じられており、職員研修等の人材育成に取り組んでいる。	○	○	
安定的な財務基盤による管理運営	指定期間で安定的な管理運営を行う財務基盤を有している。	◎	◎	勾玉ブローチや企画展図録、オンライン有料登録者限定の「note」など、利用者層に合わせた商品開発・展開を積極的に行っている。
事件・事故や利用者への対応	苦情、事故、トラブルを防止するための具体策や対処方法は適切である。	○	○	
	利用者の安全確保と緊急時の対応・体制は適切に整備されている。	◎	◎	防災マニュアルを作成したことで、気象等の警戒情報を受けてから臨時休館に至るまで、迅速に進めることができた。
地域貢献への取組	市内業者の活用や地元雇用の促進など、地域振興に寄与する事業内容である。	○	○	
	地域と連携した事業の実施や、地域活動への参加等による地域貢献に取り組んでいる。	◎	◎	地域のイベントへ積極的に参加することで、施設のPRや文化の発信につながっている。

◎：協定等の内容を超える水準で業務を履行している　○：協定等の内容どおり業務を履行しており適正
△：協定等の内容に対し、一部不履行がある　×：協定等の内容に不履行があり改善の必要がある　－：該当なし

3 業務実施上の課題（指定管理者が記入）

（1）指定管理業務実施上の課題

令和7年度も大雪や道路条件の悪化に伴う影響で臨時休館（1月11日、12日、23日、24日、25日）とした日があった。所管課と協議して、早めの休館措置をとり、事前に縄文HPやX等、各種SNSを通じて知らせることができたが、近年災害級の大雪や暴風が予報されることが多くなってきた。冬場のイベント企画も難しくなってきており、天候や道路事情の不安から体験講座をキャンセルされる方もいた。
開館から20年が経過し、空調設備の老朽化が進んできている。現在体験交流室の奥側の冷暖房が故障している状況であり、早急な改修が望まれる。また、備品についても不具合が多くなっている。

（2）課題解決に向けた取組

所管課との協議の下、防災対策マニュアルの見直しを図った。大雪や道路状況の悪化等で利用者や職員の安全が確保できない場合の対応を記載し令和7年度より運用を開始した。
予報時点で休館措置をとったことで、利用者のほか、職員の安全確保にもつながった。
体験交流室の空調設備については、改修に向けて引き続き所管課と協議していきたい。備品については、日々の管理を徹底し、業務に支障が生じる前に所管課と協議を行える体制を整えていきたい。

（3）その他

①利用者からの主な意見や苦情、対応策

利用者から指摘された展示ケース内に入り込んだ虫は、早急に除去した。
縄文の里のグッズを増やしてほしいとの意見があり、令和7年度は縄文の里オリジナルTシャツや、缶バッチなどを制作販売した。3Dのカプセルトイは、特に好評であった。
常設展及び企画展、体験活動でのアンケートは65件ほどで、職員の接客態度について「良好」との回答を得た。指定管理事業の各種体験でのアンケート結果として、「講師の職員が丁寧で分かり易かった」とのご意見に集約できている。
また、令和7年度は開館20年を記念して、「奥三面全史」について企画展を実施し、「三面地区に遺跡がある意味を教えていただきありがとうございました。」「視聴覚室で三面集落の民俗のファイルを拝見し、膨大な資料と図でまとめられていて素晴らしかった。」など、奥三面遺跡群の土器だけではなく奥三面での生活一般の意見が多かった。

②その他

4 全体的な評価

（1）指定管理者の評価

有料入館者数は、昨年度に比べ増加したが、有料体験者数、食堂・売店利用者数とも微減となった。
SNSを活用した情報発信を積極的に取り組んだ。各事業においては、職員の発案による謎解きクイズラリーやトレジャーゲームなど、新たな要素を取り入れたイベントを実施し、入館者の満足度を図った。
また、XやYouTubeにおいては、360° 動画や企画展の解説付き動画を配信し、入館者のみならず、広く地域内外に向けて「縄文の里・朝日」の魅力を発信することができた。展示、体験、食堂の各分野においても、職員が多様なアイデアを出し合い、創意工夫を重ねながら運営を行った。
利用者のアンケートでは「ほぼ良好」との評価に集約されている。

（2）施設所管課の評価

今冬の臨時休館において、改定した「防災対策マニュアル」に基づき、気象予報段階での迅速な判断と周知を徹底したことは、利用者及び職員の安全確保の観点から極めて適切であった。
また、SNSの活用強化による誘客増に加え、職員発案の体験型イベントや動画配信等の創意工夫により、施設の認知度向上及び運営の活性化を実現した点を高く評価する。アンケートにおいても利用者の満足度は概ね良好であり、職員一丸となって主体的に取り組んだ姿勢が大きな成果へとつながった。

（3）次年度の管理運営に対する指導事項等（施設所管課）

今後は、令和7年度の成果でもある「SNSを活用した戦略的な集客」及び「高いホスピタリティと専門性」のさらなる深化を目指されたい。
SNS運用においては、ターゲット層の分析やイベントの先行告知等を取り入れて来館動機をより強固なものにするとともに、利用者ニーズを的確に捉えた独自企画を継続・展開し、リピーターの確保に努めてほしい。
あわせて、新たな切り口を加えた魅力ある企画プログラムを積極的に立案し、地域や関係団体との連携を深めることで、文化拠点としての存在価値を一層高める運営を期待したい。